

ノグチゲラ保全対策の取組み状況について

北部ダム事務所 環境課長 ◎鍵田 和彦
環境第一係長 ○饒波 正利

1. 目的

北部ダム事務所では、沖縄北部の大宜味村において、大保川沿川の洪水調節、下流河川の適正な流量の確保、水道用水の供給を目的として計画された大保ダムを建設中である。

大保ダム建設事業の対象地である大保川流域では、貴重な動植物が生息しており、その中でも沖縄北部の森林のみを生息地とし、国の特別天然記念物に指定されているノグチゲラが生息している。

北部ダム事務所では、大保ダム建設事業に伴って、このノグチゲラを最大限保全するため、学識経験者による指導や助言をもとに調査や研究を重ね、保全対策の推進を図ってきている。

2. 内容

- ① これまでの調査・研究で明らかになったこと
調査内容、営巣状況（自然営巣木）、研究（委員会等）
- ② これまでの保全対策の成果
基本的な考え方、人工営巣木の制作（特許）、設置条件（高さ等）、巣立ち実績

3. 結論

これまでのノグチゲラの調査により、営巣木の状況など多くの生態が明らかになった。ノグチゲラの保全対策のひとつである人工営巣木の取り組みは、これまでの巣立ち実績から有効であると考えられる。

4. 今後の問題点

- ① 人工営巣木はあくまで緊急避難的な措置であり、湛水予定区域内の周辺における早期の良好な森林復元・創出が重要であると考えられる。このため、良好な森林復元・創出の取り組みを進める必要がある。
- ② 今後も大保ダム流域のノグチゲラ営巣状況のモニタリングを継続し、人工営巣木による保全対策効果の検証を継続する必要がある。